

9 特色ある地いきの人々のくらし

高知県の伝統産業について、調べてみましょう。

① 伝統を生かしている地いき～香美市～

ななさんは、土佐打刃物連合協同組合に行き、高知県の伝統工芸品のひとつである土佐打刃物について、調べてみました。



土佐打刃物連合協同組合のおじさんの話

高知県は、昔から林業がさかんでした。そこで山林の木を切ったり、下草を刈ったりするのに必要な打刃物がつくられました。今では、少し機械化されましたが、江戸時代の技術と伝統は、受けつがれています。産地は、香美市土佐山田町や南国市久礼田が中心です。



打刃物づくり

くわしく調べてみるとおもしろいよ。



先生

●その他の伝統産業
土佐和紙・サンゴ竹細工・かつお節
土佐かわら など

ななさんは土佐打刃物についてくわしく調べてみることにしました。

日本の主な刃物の産地



全国各地でつくられているんだね。

土佐打刃物の歴史 打刃物製造業は、長宗我部元親の戦国時代（1590年代）ごろからといわれています。山林の多い高知県では、刀かじから習って農山林具としてのなかま「鉞」「斧」「鋸」「鎌」などを中心に発展してきたのが特徴です。現在では、全国の山林用刃物の約60パーセントをしめているものもあります。



なな



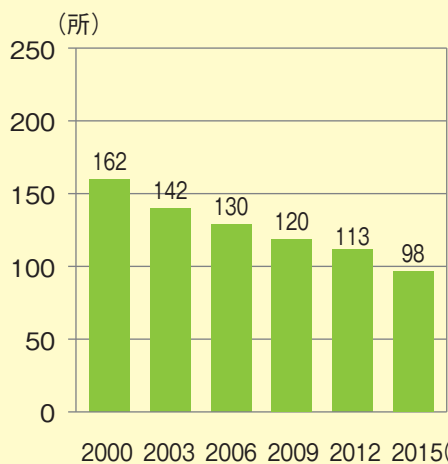
うち は もの
打刃物をつくる人たち ななさんは高知
県内で土佐打刃物をつくる人たちがどのく
らにいるのか知りたくなり、質問してみま
した。

年々打刃物をつくる人が
へってきているね。
どうしてなのかな？

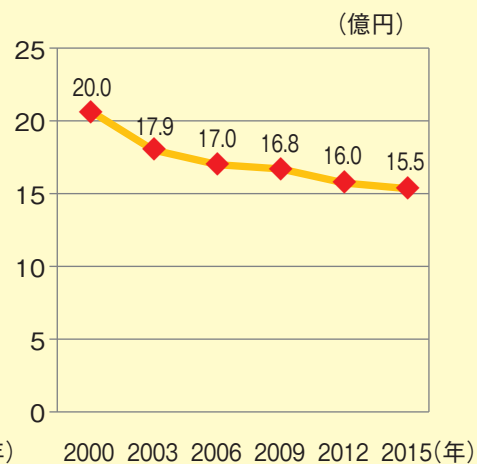


なな

土佐打刃物工場数



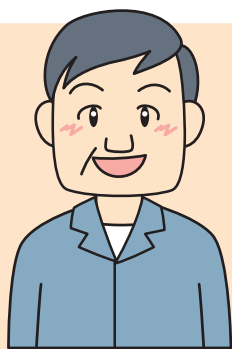
土佐打刃物売上高



「平成28年度 高知県庁 工業振興課調べ」

土佐打刃物流通センターの田村さんの話

機械化が進み、打刃物をつくる人たちが
年々へってきています。昔は、かじ屋になるに
は、弟子入りして、住みこみで働きながら修
行をしていました。でも、今は弟子をとるかじ
屋はだんだんと少なくなってきています。わたしたちは土佐打刃
物をつくる人が、もっとふえてほしいと願っています。



見学を終えて 土佐打刃物は今から約
400年前からずっとその技術が受け継がれ、
今も続いていることがわかりました。

打刃物をつくり続けて30年以上の濱口
5 さんのお話を聞くことができました。

濱口さんの話

刃物づくりは一人前になるまでには約10年もか
かります。

刃物工場は、夏場は特に暑くなり大変な仕事です。
わたしたち職人は、お客さんが、「いい刃物だね。」
と喜んでくれるのが一番にうれしいことです。お客
さんに喜んでもらえるよう日々がんばっています。

これからは、全国各地からも注文を取ったりして、
高知の刃物を全国に広げていきたいと思っています。
また、古くからの刃物だけではなく、アウトドアや
キャンプなどで使えるような新しい刃物づくりにも
取り組んでいます。

こわがらずに正しい使い方をすれば、刃物はとて
も便利な道具です。みなさんもいろいろな刃物につ
いて調べてみてください。



南国市には、
有名な伝統工芸品が
あるのね。
知らなかったわ。

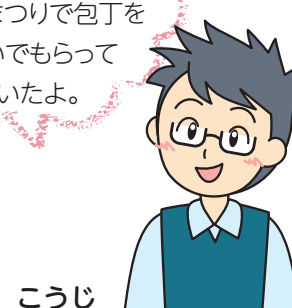
くみ

手作りのよい所を
調べたいな。



けん

そういえば、お母さんが
刃物まつりで包丁を
といてもらって
いたよ。



こうじ



なな

プロの技で
土佐打刃物はできて
いるんだね。

うち は もの

打刃物工場の見学

ななさんは、打刃物は
どうやってつくられるのか、
どんな種類があるのか調べた
くなったので、南国市瓶
岩にある打刃物工場をたずね
てみました。

打刃物をつくるには、できあ
がるまでに大変な手間と技術
が必要です。どのようにして
打刃物ができるのか見てみま
しょう。



鋼をたたいて強くする。



鉄を1000~1100℃に熱し、鋼をはめる。



中子(柄をさす所)をつくる。



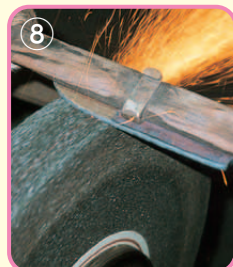
刃をつくる。



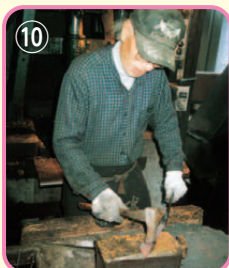
刃物のもとができる。



グラインダーでけずって形を整える。



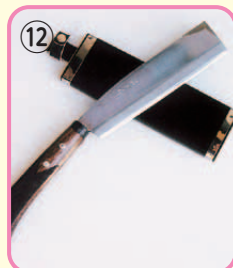
焼き入れをして、刃物に命をふきこむ。



たたいてひずみをとる。



刃をみがく。



鉈の完成。

打刃物(鉈)ができるまで

(1つの刃物ができるまで1週間くらいかかります。)

1本ずつ手作業で鉄を熱いうちにハンマーでたたいてつくる土佐打刃物は、1本1本を手作業でつくりま
す。たたいて自由な形に仕上げることができます。しかし、思
い通りの刃物をつくれるようになるには約10年間かかります。

最近では、伝統的な技術に新しい技術を積極的に取り入れながら、新しい刃物もつ
くっています。

鉈



木を割ったりするときに使います。

斧



木をたたき切るときに使います。

枝打ち鉈



細い枝などを切るときに使います。

子ども用工作ナイフ



子どもでも使いやすい小さな刃物です。柄の部分は動物の形になっています。

包丁



形も大きさもいろいろあります。どんな料理に使うかで包丁も使い分けるのですね。

いろいろな種類の打刃物があるんだね。



なな

調べてみよう高知県の伝統産業

でんとうさんぎょう

高知県には、「土佐打刃物」の他にもいろいろな伝統産業があります。

土佐手すき和紙



手すき和紙の
人間国宝
故 濱田幸雄さん



世界一うすい和紙, 土佐典具帖紙をすく
伝統的技術を祖父(幸雄さん)から受け
継ぐ濱田洋直さん(いの町神谷)



厚さ0.03ミリの「かげろうの羽」とよ
ばれる土佐典具帖紙を使った工艺品

尾土焼



江戸時代からの伝統を父から
受け継ぎながら, 今の時代にあ
った焼き物づくりに励む土居博
幸さん(高知市鴨部能茶山)



1653年野中兼山が大坂より陶工を招き, 窯を尾土(高知市小津町)に築
き, 能茶山の土を使って焼き物をつくったのがはじまりと言われています。

土佐サンゴ



伝統的な神仏像などの作品だけでなく,
サンゴの形や色の特色を生かし, 立体感
のある芸術性の高い新しい作品づくりに
挑戦し続ける鎌倉通孝さん(南国市稲
ぶ生)

右の作品は, 雲に乗った天子が小鳥と目
と目を合わせて, やさしく語り合っている
作品です。透明感のある白サンゴとほの
かな桃色サンゴがたくみに組み合わせられ
ほのぼのとした温かみが伝わってくる作
品です。



タイトル「夢天子-鳥と-」

フラフ・のぼり

元々高知のこの地いきでは水害が多く, 子どもの生存率が低いため様々な願掛け
が行われていました。その一つにのぼりを飾る風習があり, それがフラフへと変化
し, 多くの人々がフラフを掲げるようになったのが今から100年ほど前のことです。
最近では, 多くの外国の観光客がフラフの工場を見学に訪れるようになりました。
(香美市 鍵山染工場)

